

サブテーマ

「東アジア国際社会のガバナンス：
対立、和解と共存」

東アジア

- ASEAN + 3 (日本・韓国・中国) 1997

- 東アジア・サミット? 定まらない参加国と理念
(ASEAN + 3 + 3 : 豪州・インド・ニュージーランド)
 - 第一回 マレーシア 2005
 - 第二回 セブ 2007

- ASEM (アジア欧州会合 ASEAN + EU) 1996
シンガポール首相・ゴートクチョン提唱

ASEM

(アジア欧州会合 ASEAN + EU)
1996

シンガポール首相・ゴートク・チョン提唱

アジアと欧州が、

- (1) 対等な立場で（イコール・パートナーシップ）
- (2) 経済のみならず、政治、文化的交流といった幅広い分野で対話や協力を行う場

「東アジア国際社会のガバナンス： 対立、和解と共存」

国家主導のみによらない、文化や社会の独自の動き
をとおして、東アジアの現実の動態を把握し
人が安心してくらせる、東アジアの将来を構想する

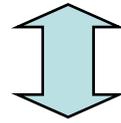
1. 「東アジアにおける
平和と和解のための文化・社会基盤の形成」
2. 「東アジアにおける
自律的紛争解決メカニズムの形成」

1, 東アジアにおける、平和と和解のための 文化・社会基盤の形成

- ※ 人・モノの移動・情報の移動
(通史的、80年代に加速)
- ※ 大きな社会格差の存在
国家間格差、地域間格差、社会階級格差
市民社会成熟度／経済／発展／環境
- ※ 東アジア現代文化圏の勢いある広がり

アジア内の多様な文化・社会の紐帯

Social and Cultural Coherence
調和・相互理解・文化交流



文化政策

民間エージェンシーの活動

東アジア文化圏
芸能・アニメ・ファッション
ライフ・スタイル
審美眼・価値観

エージェンシーの例：

- * アジア混成選挙監視
- * エキュメニカルな宗教ネットワーク
- * 作家・翻訳・メディア
- * 歴史理解（共通教科書作成作業）
- * 財団活動（マグサイサイ賞・
福岡アジア文化賞など）

多様なエージェンシーの活動とリーダーシップ

東アジアの作家、またはジャーナリスト一名

宗教家・教員・作家・ジャーナリスト・
ビジネスコミュニティ・地域行政官 etc..

サブテーマ

「東アジア国際社会のガヴァナンス：
対立、和解と共存」

2. 「自立的紛争解決メカニズムの形成」 研究グループ

問題の所在

- 東アジアの恒久的な平和と安定に向けての課題
 - アチェ（インドネシア）、ミンダナオ（フィリピン）
 - 民族的対立や国内の反政府勢力と政府間の紛争
 - 北朝鮮の核
 - さらに、中国、ロシア、北朝鮮という核保有国を抱えた北東アジアの戦略的安定

課題の特徴（１）

- アチェ、ミンダナオ
 - 政府と反政府組織の対立
 - 政府はそれなりの統治能力あり
 - 国連の介入を避けたい （「国連の介入＝統治能力の欠如」という意識
 - ただし外部の仲介・平和維持支援が必要

地域自身が平和と安定に果たすべき役割は？

課題の特徴（２）

- 北朝鮮の核問題
 - 六者協議＝地域の有力国すべてを含む協議体
 - しかし、インフォーマル、かつアド・ホックな枠組
 - 北朝鮮の「自律性重視」の姿勢（あるいは、恫喝的姿勢）

危機管理的プロセスと問題解決プロセスの同居

プロジェクトの目標

- 地域紛争の解決にあたり、外部アクター、とりわけ地域内の有力国が貢献するための**規範**および**安全保障メカニズム**について構想
- **重視すべき点**
 - 地域の**自律性**
 - **非強制的かつ協調的**な規範の醸成
 - アド・ホックな枠組みから、**恒久的な安定**と平和のための**安全保障メカニズム**（制度）へ